

お金は印刷物 | 財源が足りなければ刷ればいいんです。国民から集めるお金も、国側が刷ったんですから

ライブラリ

税金と年貢米を混同

お金とお米を混同している人ばかりです。年貢米はお百姓様に納めてもらうしかありませんが、紙幣は刷れます。財源が足りなければ刷ればいいんです。国民から集めるお金も国側が刷ったんですから。

税金と年貢米を同じに考えてはいけません。

紙幣発行

「日銀引受けは制限付き（自由に刷れない）」

制限を外せばいいのです。自分で自分に足かせをしています。

日銀が政府から国債を買うこと（日銀引受け）と、民間金融機関から国債を買うこと（買いオペ）に、大した違いはありません。民間金融機関が政府から買った国債を（後述）、日銀が買うからです。直接または迂回の違いです。

「個人の借金が増え過ぎたら行き詰ってしまうので借金はいけない。同じように国も借金を増やしてはいけない」

お金の発行側（国家）と、発行されたお金を使う側（国民）を同じに考えてはいけません。国民が使うお金を日銀は発行しますが、お金を発行する度に日銀の負債は増えます。しかしながら無利子かつ返済不要です。返済のしようが無いのです。必ずどこかで負債が発生します。

「国の借金が増えると日本は破綻する」

「国の借金」と言われますが、国債を発行するのは日本政府なので、「政府の借金」です。政府の借金を返済するのは政府です。政府の借金を国民が返済する道理はありません。

「国債の発行は、負債（元本返済・利息の支払い）を未来の世代に押し付けることになる」

再び国債を発行して、お金にすればいいのです。

国債は金融市場で「お金」として扱われておりますので、国債がなくなると金融市場は回らなくなります。

財務省は毎週のように国債を発行して、民間金融機関に入札してもらい（前述）、国の財源に充てています（公債金）。

民間金融機関が支払う国債購入代金も、大富豪の財産も、国会議員の活動資金も、庶民の生活資金も、起源を辿れば国側が発行したお金です。お金は人工物です。天が与えてくれた唯一無二の存在ではありません。

全体を知ることです。媒体から部分だけ聞かされて、部分がすべてと誤認すると、まともな判断はできません。

お金の量と商品の量

市場の商品の量より、お金を多く発行すると、お金がダブつくので、お金の価値が下がります（相対的に商品価値が上がる）。だから、市場の商品の量を超えないようにお金を発行すればいいのです。

物が買えないのは「お金が無いから」です。「商品が無いから」ではありません。商品は市場に十分あり、不足しているのはお金なので、お金を発行してもらえば国民は生活できます。

お金をたくさん発行してもらっても、堰き止められたら庶民に届きません。「足りなければ発行すればいい」とPDF作成者は述べておりますが、お金を独占させない仕組みも構築して実施しなければ、実は意味無いです。

要望通りにお金がたくさん発行されても、対策を講じなければ必ず独占されます。なぜなら、現時点で独占されているからです。

最終更新日 2026-08-13

[まこと](#)